

令和3年第10回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和3年10月19日(火) 13時58分
- 2 閉会日時 同 日 14時55分
- 3 開催場所 加西市役所 5F大会議室
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	植 田 正 吾
教育委員会次長(こども園民営化担当)	
	高 倉 慧 喜
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
教育委員会課長(学校施設担当)兼施設係長	
	井 上 英 文
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
生涯学習課長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	藤 川 貴 博
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

- 6 付議事項

議案第36号 加西市立図書館協議会委員の委嘱について

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第 36 号 加西市立図書館協議会委員の委嘱について

図書館長より説明する。加西市立図書館設置条例第 5 条 3 項の規定により、学識経験者の委員として商工会議所常議員の柳氏を、加西市立図書館協議会の評議会委員に委嘱したく、委員会の議決を求める。これは前任者の退職により、加西商工会議所常議員が交代したことによるものであり、任期は前任者の残任期間である令和 3 年 10 月 1 日から令和 5 年 8 月 31 日までである。

9 議決事項

議案第 36 号 加西市立図書館協議会委員の委嘱について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

9 月 27 日の前定例教育委員会以後について報告をする。

9 月 28 日は 9 月議会の最終日であった。

翌 29 日には、今年度後半の教育委員計画訪問が始まった。この日には、北条東小学校、北条東こども園、富田小学校を回って 1 人 1 人の先生方の授業を参観した後、校長、教頭、園長先生と懇談をさせていただいた。計画訪問で毎回感じることであるが、それぞれの学校には明らかな校風というか、個性がある。それはその地に息づく歴史や文化、言い換えればその地域の暮らしに育まれたものだと思う。それを次の世代により良い形でバトンタッチできるかどうかは、今の大人たちの頑張りであり、その見識が問われているといつも実感をする。

翌 9 月 30 日には定例校長会が行われた。校長先生方に教育委員会の来年度事業計画と予算についてご説明した。全課が「〇〇×STEAM」の項目を掲げて、つまり教育委員会を挙げて、未来の STEAM 人材の養成に乗り出すということを表明していると校長先生方にお知らせをした。

校長先生方の中には、STEAM 教育について多忙な現場の教師が分かりやすく理解できるように、わざと「従来の探究的な総合学習と同じだよ」と説明されているケースがあるようである。確にかぶる面があるとはいえ、重要なこととして私が思うに、

STEAM 教育は 21 世紀の新しいヒューマニズムの育成だということである。どういうことかという、1 人 1 台の Chromebook 環境を最大限に生かして、地域の企業などともつながって最新テクノロジーを教わり学びながら、1 人 1 人の生徒が「最新テクノロジーでこんなことができる。こんなことができるのなら、こういうものが誰かのためにあつたらいいな。」「おじいちゃんのために」、または「お母さんのために、こういうものがあつたらいいな」と思う。そういう未来を実際につくって、そして、自分のことに引き寄せて考えたり、誰かのためにあつたらいいということを、現実の世の中で実際に役立たせようとする大人を育てることだと思っている。

そのために教育とは、子どもたちの日常の素朴な疑問や自由な発想、好奇心などをどう引き出すのか。そして、それをどう伸ばすのか。そのことによって十把一からげではなく、1 人 1 人の思いや生き方、個性、特色というものを本当に大切にする。それが STEAM 教育の目指すところだと、人材育成だというふうに思っている。それを事あるたびに校長先生方にもお話し申し上げている。

30 日午後には、九会小学校 5 年の藤原瞭希ちゃんという女の子が、お母さんと一緒に全国小学生陸上競技交流大会報告のために教育長室に来てくれた。私の前で半袖短パンのユニフォーム姿を披露してくれてびっくりしたが、すごくうれしそうに目を輝かせて「全国 7 位だったんです」と言っていた。加西市ではなく全国で 7 位というのはすごいことである。彼女がそういう経験から大きな自信をつけている姿を見て、やはり子どもというのは日々少しずつそうした経験から自信をつけさせることで、ものすごく成長するものなのだと実感した。そういう成功体験こそが、この子を本当に大きく強くしているんだと感動した。さわやか市民賞のときに一度来られて少しお会いしたのだが、今回結果報告にわざわざ来てくれてたいへん嬉しかった。

10 月 1 日午後には、この後でも申し上げるが、加西市未来の学校構想検討委員会の委員をお願いした「十勝うらほろ楽舎」理事の上田真弓先生が訪問された。先生のご主人が丹波にいらっしゃるので、「こちらからお伺いたします」と言ったのだが、「いやいや簡単ですから行きますよ」と気さくに来てくださり、いろんなお話をさせていただいた。この前にもご紹介があつたが、上田先生は兵庫県生まれで、民間にしばらくいらっしゃられてから文部省に入省された。そして、兵庫教育大学でも教えられて、この日も「ちょっと兵教大に用があつてこちらに戻ってきました」とおっしゃられていた。現在は北海道「十勝うらほろ楽舎」の理事をなさっておられ、このうらほろ楽舎では地域と学校が一体となってどうやって地域を守り、子どもを育てていけるかというようなことの実践をなさっているという。

子どもの未来を語ることは地域の未来を語ることであるというのが先生の持論である。今、地域と学校が連携、協働してそれぞれがパートナーシップに発展するようにするには、どうしたらよいかという様々な実践をされており、子どもだけでなく大人も共に学び合い育ち合うということで、社会の激変を乗り越え、次世代に渡すバト

ンをつないでいけるのではないかというお考えをお持ちで、その実践を北海道で今なさっているという。できればそれを引っ下げて兵庫県へ帰ってきて、また、大学や地域でやってみたいということを強くおっしゃっていた。

同日夕方には、加西市未来の学校構想検討委員会について様々なご意見をお伺いし協議した。

10月6日には、事業実施計画ヒアリングが行われた。そこで教育委員会の方針に基づく事業計画案を提出した。そこには当然予算もかかわっており大変大事なものであった。実を言うと既に予算を削られそうな雰囲気もあるが、頑張りたいと思う。ただ、予算には上限があり、どこの課やどこの部ももう目いっぱい出しているので、「かなり削らないと」と言って担当者は嘆いておられた。

7日には、六甲山中腹にある神戸大学大学院を訪ね、人間発達環境学研究科、これは元教育学部だそうだが、そこで渡邊隆信先生にお目にかかり、加西市未来の学校構想検討委員会のことについて様々な示唆やアドバイスを頂き、懇談させていただいた。そのときはまだ決まっていたわけではないが、その後開かれた委員会にて、結果的に渡邊先生が会長にご就任いただくことになった。渡邊先生については私より皆さんのほうがよくご存じのようで、加西市の教育委員をお務めいただいたこともある。

そして、先生が言われるのは、日本では今日なお、四角い部屋の中で黒板を背にした教師が、30人から40人の子どもたちと向かい合っている光景というのが一般的であると。しかしながら、例えば少し時代を変えて、昔の教室はどうだったのか。あるいはほかの国々の教室はどうなっていると思うか。もう少し視野を広げると、日本で現在「当たり前」だと思われている教育のそういうスタイルでさえ、少し時代を変えたり、少し場所を変えたりすると実は当然ではないということに気づきますね。今後それをどういうふうにするべきか、どうあるべきなのかを、きちんと自分の頭で考える学生を育成したい。そのようにして学校教育を時間や場所の「比較」の視点から多面的に考察しようとなさっている学者である。

8日には、さわやか市民賞の贈呈式があった。受賞者は小野高校の蔦川真優さん。この方は中学校まで泉中で、現在小野高校に通われているのだが、背泳ぎで県大会優勝をされた。もう1人、北条中3年藤本涼哉君は、走り幅跳びで近畿大会優勝をされた。そうした輝かしい成績を取られて、市長からさわやか市民賞が贈呈された。受賞者が学生や児童生徒のときには、私も贈呈式に出席し一緒にお話をさせていただいている。

10月11日午後、市民会館小ホールでいよいよ第1回加西市未来の学校構想検討委員会が開かれた。これは教育委員さんとの協議とは別のものである。検討委員会を立ち上げ、広く市民の意見を聞くというものである。教育委員会が事務局を務め、委員にはもちろん保護者代表を始めこども園の園長や小中学校の校長、そして、社会教育委員や代表区長、老人会や婦人会の代表の方々、学識経験者、市職員なども加えて17名

となっている。少し大人数ではあるが、見える化されていないため誰が決めたかよく分からないような場で協議するというものでは全くないと思っているので議事録もオープンにしたい。また、詳細については教育総務課長から報告をさせていただく。

10月13日には、北条小学校、北条ならの実こども園、北条中学校の教育委員計画訪問が行われた。様子については、教育委員会ホームページで私が毎週木曜日に発信している教育長雑感「日々是好日」に書かせていただこうと思っている。お時間のあるときにお目通しいただければ幸いである。

18日には職員採用試験委員会が開かれた。また、令和3年度第1回子ども・子育て会議も開催された。大変活発な会議であり、予定していた3つのテーマのうち1つ話し合ったら時間が来てしまったという感じであった。ただ時間だけでマネジメントしようとするときちんとした話ができないので、私は大変いいことだと思っている。当初はあと1回で終わらせようと考えていたのだが、そうではなく、できればもう1回、2回と会議を開いたほうがいいという雰囲気を大変強く感じた。こども未来課にとっては大変だとは思いますが、ぜひ努力していただきたいと思っている。

そして、この日午後から令和3年度目標達成状況を確認する校長面談が始まった。本日午前中にも行ったのであるが、校長先生方1人1人が自分の立てた目標に今どれくらい近づいているのかを、自分で評価されるというような場面である。いつも私は「そんなことで人を評価できるのか。表面だけ聞いて評価できるものじゃないかと、いつも大変恐ろしいことをしているな。」と思う。ただ、そういう場がないと先生方も切り決りがつかないということもあるのだと思う。面談はまだこれからも明日、あさってと続く。1人1人と真剣に話をしようと思うと大変なエネルギーを使う。でも、大事なこと、大事なお役目だと思っているので、きちんとやろうと思っている。これは少し愚痴だが、昨日は午前中に会議が3つ、午後は4人の面談と、あまりにハードなスケジュールだったので、帰ってベッドに倒れ込んだ。でも、そういうことが一生懸命できるということは、やはり大変ありがたいことだと思っている。皆さんのお支えがあつてのことだと思うので、今後もどうぞよろしくお願いを申し上げる。

教育総務課長

第1回加西市未来の学校構想検討委員会について報告する。

10月11日に加西市未来の学校構想検討委員会がスタートした。少子化の進行による小中学校の再編や地域との連携による学校づくりなど、将来に向けて加西市の望ましい教育環境の在り方とその具体的な方策について協議を行うこととしている。会長に渡邊先生、副会長に上田先生が選出された。保護者代表や区長、各種団体の長からの委員計17名で、来年9月末までの1年間協議していただくことになっている。

学校の在り方については、今まで委員会内でも協議してきたが、一歩進めて「未来の学校構想」ということで、将来の加西市の教育の構想を掲げることを目的としてい

る。当日は市長から会長に諮問書が手渡された。配布の資料はその諮問の内容に沿って加西市の現状や課題についてまとめたものである。その後、加西の教育のありたい姿と教育内容については学校教育課長から、小中学校再編の基本的な考え方については教育総務課長から、地域との連携による学校づくりについては総合教育センター所長から説明がされた。第1回目は、現状の状況と課題をテーマに各委員から意見を頂いた。各委員からは、積極的にご意見をいただいております、次回以降しっかりと頑張っていきたい。

会議は完全にオープンでどなたでも傍聴ができる。また、会議録あるいは配布した資料についてはホームページに掲載したいと思っている。会議録は現在取りまとめ中であるが、資料は既にホームページでご覧いただくことができる。なるべくいろいろなことをオープンにしていきたいと思っているので、どうぞよろしくお願いしたい。

教育委員からの意見と教育総務課長の回答

- ・傍聴させていただいた。会長と副会長選出の後、議論が本当にフランクというか、話しやすい雰囲気の中で進んでいたのも、また、議論が深まってくだろうと思っている。これから出来る限り傍聴させていただきたいと思っている。
(回答) ありがたく思う。よろしくお願いしたい。

学校教育課長

まず、各学校の教育活動について報告する。

中学校全4校の修学旅行が無事終了できたことを報告する。4月から再三、「できるだろうか、できるだろうか」と言っていたが、緊急事態宣言の開けた翌日から順次、長崎方面を中心として2泊3日の思い出深い旅ができたことを、各校長から報告を受けている。加西市の生徒たちは、このようなコロナ禍において修学旅行が実施できたことに対して、事あるごとに感謝の言葉を述べていたと聞いている。現地での行動も過剰にはしゃいだりすることなく、1人1人がある意味その場の状況を考えて自主的に行動していたという。確かに修学旅行は思い出を作るためのものであるが、学校の教育活動であることを踏まえれば、知識的な学び、現地だからこそ見聞きできたり、その土地の人々との出会いの中から感じたりする学び、そして、人として大事な規範意識、感性などを磨くことが目的である。むしろコロナ禍のこの時期に行けたことが、子どもたちにとっては通常では学べなかったことを含め大変学びの多いものになったのではないかと実感している。

小学校については月末26日、27日の2日間に行く準備を進めており、加西特別支援学校中学部、高等部については、11月22日から24日で、何としてでも行かせてやりたいという願いで学校、保護者、事務局として実現したいと思っている。

また、加西特別支援学校の小学部5、6年生と中学部の児童生徒が、10月14、15日の2日間、交流体験チャレンジ学習を南あわじで実施した。昨年度は校外活動が実施できないということで、予定していた海での体験活動が中止となった。これについても、児童生徒にとってとても良い体験活動の場で学びの多い2日間になったと加西特別支援学校校長から報告を受けている。

次に、感染症対応について報告する。緊急事態宣言が解除され、北播管内でも感染リスクが大変低くなっているが、各学校ではマスクや手指消毒の徹底など、子どもたちが自らの健康を自らで守ることを意識していけるように、感染症予防についての指導を引き続き行っている。その中で前述の修学旅行など、その学年でしかできない体験学習や学べない教育の機会を確実に確保するよう努めてもらっている。10月に入ってオープンスクール等が実施され、特に学校外からの参観者をお迎えする行事が増えてきているので、各学校に工夫をしてもらっているところである。

最後に、先ほど教育長の報告にもあったように、5月から始まった市内公立全学校園への計画訪問では教育委員の皆様にお世話になり感謝を申し上げたい。そのときどきに頂いた貴重なご意見は、今後の学校園の保育や教育につなげていけるよう申し伝えている。

また、同行したこども未来課並びに学校教育課、総合教育センターの職員も、後日それぞれの専門的見地から園長や校長、教頭に対して指導助言、もちろん賞賛も含めてお伝えさせていただいている。今後も学校園に訪問いただく機会などにお気づきのことがあれば、学校園の応援団のお一人としてぜひご指導ご鞭撻を賜われると幸いである。

また、例年行われている計画訪問について、「この点は改善したらいいのではないか」、「過剰な接待等は必要ない」などのお言葉を頂き大変ありがたかった面もある。「計画訪問そのものを少しやめて違う形にしては」というようなご意見については、昨年度整理したところであるが、今後の学校教育活動の充実のために忌憚のないご意見を頂ければと思う。感謝を申し上げたい。

教育委員からの質問や意見と学校教育課長の回答

- ・先ほど言われたように中学校の修学旅行が無事終わり本当に安堵している。9月末に緊急事態宣言が終わるまで、担当の先生方は多分学校方面でいろんなご配慮をされたり、お気遣いされたりしたことと思う。緊急事態宣言が解除になっても、いろんな意味でご苦労はあるとは思いますが、子どもたちがしっかりと修学旅行ができて、人生における大きな思い出が残せたということで、本当にありがたいことだと思う。また、今お話にあった特別支援学校の体験活動も実施できたということで、一つずつ着実にそういう活動ができていくことに本当に感謝したい。今後ともよろしくお

願います。

- ・ 課長から報告された学校園訪問について、こども未来課も含め大変お世話になった。当初、「本当に行くべきか、行くべきではないか」という議論があったが、学校のほうも「来てほしい、来てもらったほうがいいよ」という話を聞き、全校園を訪問させていただいた。子どもたちの学習に向かう姿、また、Chromebook を本当に使いこなしている風景を見させていただいて、教育長が言われた STEAM 教育を含めてこれからどんどん進んで行くのではないかという思いになった。また、おいしい給食を食べたりなど、本当に感謝している。来年度もこういう形でできたらと思う。今までは校長先生がかしこまってという感じだったが、今年は懇談ということで、ざっくばらんな話のできたのも良かったことの一つだと思う。

あとは、これから気になるのは、去年は我々も含めてインフルエンザが全然なかったのに、今年インフルエンザが大流行するのではないかという危惧がある。それから、コロナプラスインフルエンザというのも少し心配な部分であるので、またその辺りも十分気をつけていってほしいと思っている。

- ・ 学校訪問もいろいろと見させていただいてありがたく思っている。まず、一番印象に残ったのは、去年は学校訪問がなかったので、その前の年と今回とを比べて、授業の風景とか、先生の指導とか、教えることがものすごく違ったということである。先ほど別の教育委員もおっしゃっていたことだが、やはりタブレットや GIGA スクール構想に加西市がいち早く取り組んだおかげだなと思う。それに伴い学校の先生方もいろいろと熟知されていて、働き方改革で大変な中すごく努力をされていることにとても感謝しているところである。また、私も当初少し言っていたように「訪問どうしようかな。行く必要性はあるのかな」と思っていたが、こういう授業を見させていただくと来年度も「やはりずっと行って、また、思ったことなど何かいろいろと意見を言いたいな」という気持ちになった。また、来年もぜひよろしく願いたい。それと、先生方は努力されて大変だということだが、これからも子どもたちのためによりよく願いたいなと思っている。感謝の言葉をお伝えしたい。

- ・ 計画訪問でいろいろ見させていただき感謝している。1年前ならばさほどでもなかったが、今までと違って Chromebook が入ってきて、それにより STEAM 教育が始まり、本当に1年のあつという間に何かすばらしく学校が進んでいる。加西の未来がこれからどんなふうになっていくのかと本当にわくわくする思いで見させていただいた。先生方もいろいろと大変ご苦労されていると思うが、子どもたちと一緒に STEAM 教育を学んでいかれたらよろしいかと思う。感謝をお伝えしたい。

また、オープンスクールについては、ご招待を受けているところとそうでないと

ころもあったりするが、コロナの関係もあるのでやはり連絡して行ったほうがよ
しいのか。

(回答) オープンスクールについては、恐らくご案内のあったところしか実施して
いないと思われる。先日、事務局でもセンターと話をしている、実際どこがどうい
うふうに行っているかは把握ができていない。オープンスクールに行っていたの
は連絡なしでよいように学校に話をしている。案内がないところは実施していない
場合がほとんどで、かなりの学校が取りやめていると聞いている。

生涯学習課長

生涯学習課から加西市盆栽展とふれあい伝統芸能フェスティバルについてご報告す
る。

まず、加西市の盆栽展については、今年度第 55 回を迎える。10 月 29 日（金）から
31 日（日）の 3 日間、アステアかさい 3 階地域交流センターにて開催する。時間
については、29 日、30 日が 9 時から 17 時まで、最終日は 16 時までの予定。昨年度、第
54 回盆栽展はコロナウイルス感染症拡大により中止となり、今年度は 2 年ぶりの開催
となる。これは加西市盆栽研究会さんが中心になり、会員の方々が丹精を込めて育て
た作品が展示される。

また、2 年前からの取組として、盆栽への興味をお持ちいただく機会や少しでも後
継者育成の一助になればということで、中央公民館が開催している夏休み親子盆栽教
室の参加者へ出展のお声がけも行っている。初心者の方々の作品と会員の方々の丹精を込め
られた作品とを一度に展示し、ご覧いただく方々にも伝承と研究を重ねられた伝統文
化のすばらしさを感じていただければと出展へのお声がけをさせていただいている。
現在、親子盆栽教室の参加者 10 組の方から盆栽展へ申込みがあったと聞いている。お
忙しいところかとは思いますが、委員の皆様や事務局の方々にもぜひご覧いただきたい
と思っている。よろしくお願ひしたい。

続いて、ふれあい伝統芸能フェスティバルについて報告する。例年 11 月 23 日の勤
労感謝の日に、ふれあい伝統芸能フェスティバルを播磨農高祭と同時開催している。
これは地域社会に育まれてきた伝統芸能を伝承し、心豊かな地域社会の構築を目的と
して実施している事業である。この出演演目は、播磨農高の郷土伝統文化継承クラブ
による播州歌舞伎と加西市内で伝承活動を熱心に取り組まれている郷土芸能団体、例
えば皆さんもご存じの播州加西あばれ太鼓愛好会さん、ひまわりっ子クラブさん、南
京玉すだれなどで有名な夢ふくふくさんなどの様々な団体様があり、その方々による
演目を実施していた。

昨年度は、コロナウイルス感染症拡大のため、この伝統芸能フェスティバルも中止
となった。今年度、クラブの存続自体が危ぶまれていた播磨農高の郷土伝統文化継承
クラブで部員が 6 名になり、人数の関係で今まで「寿式三番叟」だけしか演ずること

ができなかったのだが、今年は、全編は無理だが「義経千本桜」も披露できることになり、先生方も伝統芸能フェスティバルに向けてとても期待をされていた。

だが、9月末に生涯学習課、播磨農高、フェスティバルの実行委員会の委員長とで最終的な打合せをした際、実行委員長から昨年から今年にかけて郷土芸能団体の活動がほぼ全て中止となっており、練習する機会さえなくなっている現状であると話された。参加団体に対していろいろとお声がけはしてくださったのだが、練習の機会もなかったということで、参加ができないというお申出があった。その場で三者がかなり時間をかけて、何とかできる方法はないかといういろいろ検討はしたのだが、このフェスティバルは出演される団体があつてこそその開催できるものなので、非常に残念ではあるが今年度も中止せざるを得ないという結論になった。

このとき心配したのは、せっかく部員が6名になった播磨農高の皆さんの発表の場がなくなってしまって、モチベーションはどうなるのかということだった。先生にお伺いしたところ、学校の文化祭や2月にほかからの出演依頼があり、そちらに出演予定があるので生徒のモチベーションは維持できますということだったので、皆で少し安堵した。出演団体の方々の高齢化の問題もあり、来年度は何とかこの部分を継承していけるように、また、考えながら実施していきたいと考えている。

教育委員の意見

- ・伝統芸能フェスティバルが中止になったのは大変残念なことではあるが、中止の決定に至るまでにいろいろと話し合いされ、できるだけ実施することができるようにとかなりの努力をしてくださったことに感謝を申し上げたい。やはりコロナ禍の状況では、もちろんなかなか練習ができない状況や多くの方が集まることも大変難しい問題があつたと思う。去年、今年中止となり大変だったが、また、こうしたことを踏まえて来年にチャレンジしていただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。
- ・教育長の意見：コロナで実施できない間に自然消滅してしまうということのないように努力できればと思う。

総合教育センター所長

令和3年度「いじめ防止運動」作品展について報告する。

児童生徒がいじめの未然防止を目的とした標語やポスターを創作することで、いじめを正しく認識し、いじめ防止の意識向上を図るため、市内の小学校高学年生と中学1年生には標語、中学2、3年生にはポスターを募集した。今年度の応募総数は1065点で、うち標語786点、ポスター279点であった。審査会を経て、学年ごとに最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作5点を選んだ。アスティアかさいのウォークギャラリーで10

月4日から15日まで入賞作品展を開催し、広く市民の皆様にもいじめ防止啓発と子どもたちのいじめ防止に向けた取組を紹介した。また、市内小中特別支援学校全16校において、要項のとおり10月18日から1週間ずつ持ち回りで作品展を実施している。なお、入賞作品については一覧表のとおりなので、ご覧いただきたい。

続いて、令和3年度土曜チャレンジ学習についての中間報告をする。

これは土曜日に子どもたちの受け皿として、より豊かで有意義に過ごす環境を提供するため、地域と学校の連携・協働事業として平成26年度から実施しているものである。令和3年度は、北条小、北条東小、下里小、富合小、九会小、泉小の6校区を会場とし、ふるさと創造会議、PTA、子ども会、公民館、陸上競技協会などが支援団体として計画実施を行っている。このうち、善防公民館と陸上競技協会が支援団体となる活動については、市内全域からの参加を受け付けている。活動内容は、スポーツ活動、文化活動、郷土愛を育てる活動、料理や創作、農業といった体験活動など、それぞれ工夫して行われている。今年度は感染状況が厳しく、2校区は計画をしたものの中止となっている。また、緊急事態宣言中はほとんどの校区で中止となった。実施をする場合、実施に関しての調整や感染防止のための運営工夫など、支援団体のほうでは大変なご苦勞をされている状況である。現在、全体の7割ほどの活動を終えており、参加者は延べ266名となっている。これからも学校教育と社会教育が両輪となり、心豊かでふるさとを愛する加西っ子を育てていこうと考えている。

教育委員会の意見や質問及び総合教育センター所長の回答

- ・私は10月15日最終日にいじめ防止運動の作品展を見させていただいた。5年生以上の皆さんが標語を書いたり、ポスターを描いたりすることだけでも、やはりいじめをやめようという気持ちになったり、いじめってこんなことなんだという正しい啓発となり、いじめの防止に役立つだろうと思う。また、その仕上げた作品を掲げて見ることで、再度啓発になると思うので、毎年本当にいい行事を行ってくださっていると感心する。また、金の札や銀の札がついた賞や大賞をもらっている作品は本当に力作で、すばらしいものがある。ただ、受賞はしなくても、やはり皆さんが一生懸命にそうやって描いたということが大事なので、また、できるだけ続けていっていただきたい。感謝を申し上げる。
- ・加えて、各学校持ち回りで紹介していただくのは、とても大事なことだと思う。玄関付近に飾ってあると、やはり子どもたちの目に留まる。よろしくお願ひしたい。
それから、土チャレについては、コロナの影響がと報告にあった。実は私も九会小学校の活動に関わっていて、5月22日にその他の活動として野菜植付け体験を行った。ところが、実は子どもたちが一生懸命植えた畑をイノシシが全部掘り返して

しまった。10月にそれを使って野菜の収穫体験や調理体験をしたいと思っていたので、慌てて別のところを確保したが、結局、芋ができない状況になってしまった。だから、コロナの影響プラス獣害というのも出ており、本当に子どもたちは残念な思いをして、我々も少しそちらのほうの対策も考えていかないとと思っている。

- ・土曜チャレンジ学習については、それぞれに目的があり面白いと思う。特に陸上競技教室についてお聞きしたい。一生懸命取り組まれている学校では、先生方は大変ではあるが、陸上競技がすごく盛んになり、優秀な選手が出てくるなどということをお聞きしたい。このチャレンジ学習の場合、先生方も大変だが、走りたいたいという子の希望をのんで走らせてあげるといことでいろいろと取り組まれていると思う。ただ、走るだけではこの教室はいつまでももたないと思うので、最終的にどういう目的をお持ちなのか。

(回答) 土曜チャレンジ学習の目的は、休日に有意義な体験をして、それぞれ自分たちが学びたい、伸ばしたいことに挑戦やチャレンジをすることなので、この陸上競技教室自体は、最終的に大会に出場して賞を取るということは目的ではない。小学生なので、むしろ一番基礎的な陸上競技を通してスポーツに親しみ、スポーツの基礎を学ぶことであり、もちろん陸上競技の取組なので、タイムを計ることなどによって、個人的には意欲やタイムの向上更新を実感していくというものにつながっているが、そうした取組として行っている。

- ・もしその先に見えるものを子どもが要求するのであればとか、また、先生がその子を引き上げるとか、そういうお考えはないのか。

(回答) この土曜チャレンジ学習の中では、それを目的とはしていない。それぞれが目標を持ち中学校に入れば、部活動が始まる。それから、中学校の部活動以外にも、クラブチームなどがあるので、意識や思いがある者はそこにつながっていく活動となっている。

- ・月1回ただ走るだけとかそういうことか。どのような先生が中心で行っているのか。

(回答) 今中心で行っているのは、陸上競技協会の小坂先生（加西中学校教頭）で、窓口にもなっていて頂いている。もちろんただ走るだけではなく、競ったり、体の動かし方や準備運動をしたりとトレーニングの全般行っている中での陸上競技である。

- ・その先にいいものが見えてきたら、また加西のためにいいかなと思うが、よろしくお願ひしたい。

- ・私が言うことではないかもしれないが、私もこの活動に少し関わったことがある。

もちろん準備体操、ストレッチ、柔軟体操から始まるが、やはり子どもたちの走るフォームを少し直すことでタイムが速くなったり、中距離の場合もタイムが縮まったりする。子どもたちはそこで喜びを感じて、「頑張ろうな」「これもやりたいな」というふうに次の意欲へつながっていく。そこからもっと上の選手になることもあるとは思いますが、そこまで行かない子もいるかも知れないが、やはり子どもたちは「次、頑張ろうな」「ちょっと速くなったな」という喜びを感じていると思う。

1 1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

なし

1 3 今後の予定について

- ・令和3年第11回定例教育委員会 11月15日(月) 14:00～5F大会議室
- ・令和3年第12回定例教育委員会 12月16日(木) 14:00～1F多目的ホール

1 4 その他

なし

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和3年10月19日

出席者

(出席者署名)